

2×4パネルの協業第1号物件上棟

ウイングとウッドステーション

パネルの平滑性が有利、ノウハウ確立へ

2×4コンポーネント大手のウイング（東京都、倉田俊行社長）と大型パネルの製造販売を手掛けるウッドステーション（千葉県市、黒岩征社長）の協業で製造された2×4建築パネルの採用第1号物件が千葉県市で上棟した。ウイングが材料をプレカットし、大型パネル生産パートナー会のモック（埼玉県八潮市、榎本哲也社長）がパネルを製造した。ウイングとウッドステーションは今回の成果と課題を検証しながら、ノウハウを確立したい考え。

千葉県に事務所を持つウイング建設（千葉県大網域里市）が地元の不動産業者から請け負った物件で、延べ床面積約100坪の2階建て賃貸住宅。ウイングの白井工場（同市）でモックの2×4パネル工場（千葉県市）とも千葉県市内にあり、プレカットからパネル製造、現場納材まで近距離で完結した。

パネルは、通常の2×4パネルにサッシと防水シートを取り付けた。上棟までの日数は従来の2×4パネルと同じだが、結果的にパネルの精度が向上した。現場作業には8人が携わった。

上棟までの日数は従来の2×4パネルと同じだが、結果的にパネルの精度が向上した。現場作業には8人が携わった。

本道組組工法向けの大型パネルでは、新築で建てた工場を取り付けるが、ウイングではパネル工場や現場の立地条件などに応じてどこまでパネル化するのかが合理的かを今、検証している。



建て方白川、2階の壁まで組み上げた現場

できた。木を再認識できたこと。建築現場で、建築パネルを製造するサテライト工場のあるべき姿、価値も明確になったと話した。

高い杉のKD材を使用したことでパネルの精度も向上したと話す。榎本哲也は「一歩を踏み出したばかりで評価するには早い。数をこなすことが次は何をすべきかが見えてくると確信した。建築パネルの信頼が明確になれば現場作業の価値も見直され、大工は収入、休日確保など労働条件の改善が図れると見ている。2×4パネルの平滑性というメリット

平滑性というメリット